

月刊

300



地図と学ぶ

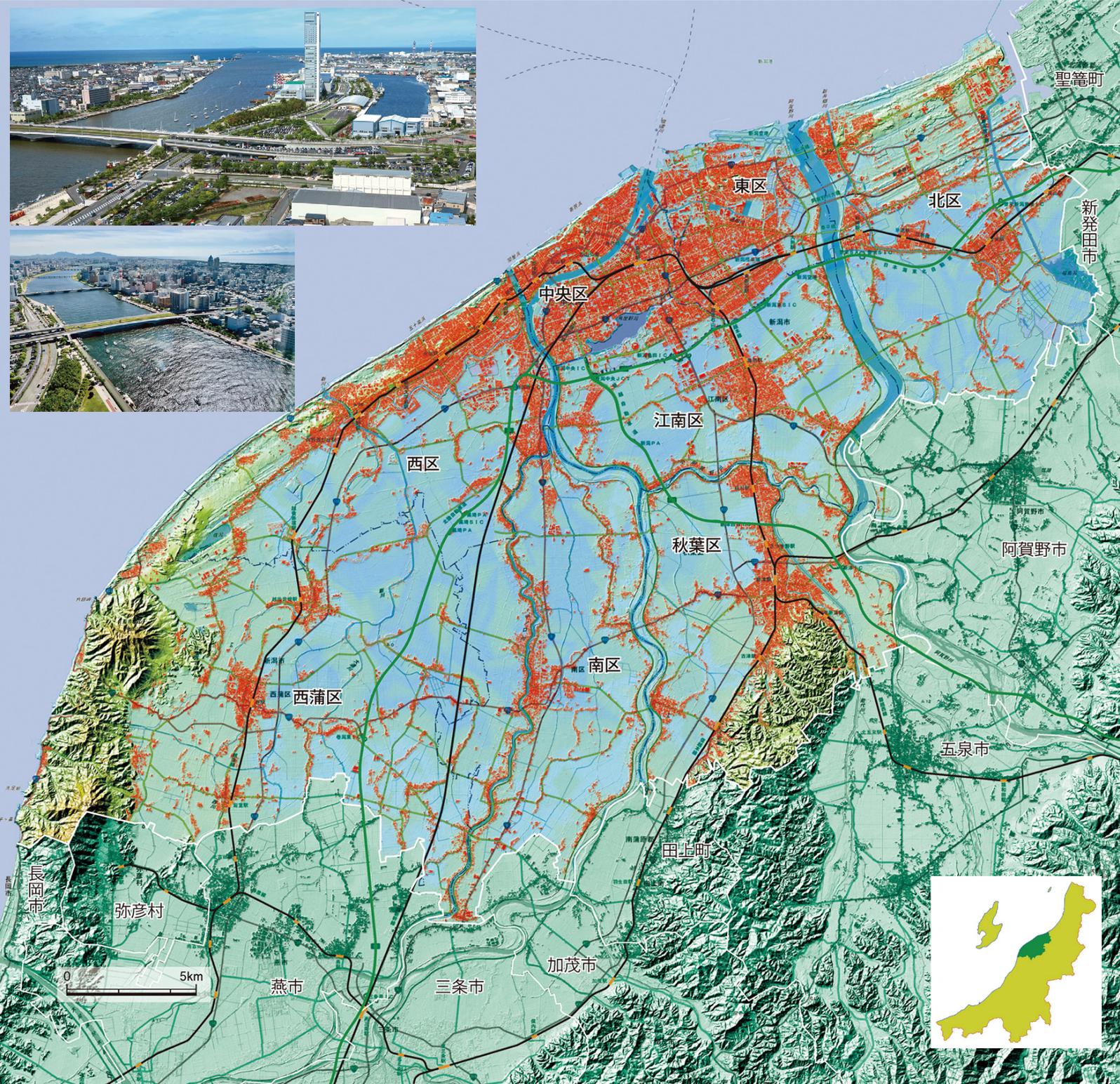
通巻

600

# 地図中心

2022年9月

## 総特集 新も旧も潟も砂丘も新潟市



日本海縦断国土軸と横断国土軸の結節都市・新潟市	戸所 隆	3
新潟のまちなみ今昔観	野内 隆裕	6
新潟砂丘—知られざる地形の今—	澤口 晋一	9
新潟市とその周辺の地形	小泉 武栄	12
新潟付近の鉄道路線網の形成	今尾 恵介	14
日本一の大河 信濃川流域を守る2つの分水	小川 純子	17
新潟市鳥瞰図 吉田初三郎筆	編集室	20
地形段彩図		22
2007(平成19)年		24
2003・2004(平成15・16)年		26
1983(昭和58)年		28
1968(昭和43)年		30
1960(昭和35)年		32
1945(昭和20)年5月25日		34
1937(昭和12)年		36
1931(昭和6)年		38
1921・1924(大正10・13)年		40
1913(大正2)年		42
1911(明治44)年		44
1900・1901(明治33・34)年		46
1890・1891(明治23・24)年		48

◆「地図中心」は毎月10日発行です◆

1冊 880円(税込)

地図倶楽部

◆紙版と電子版のご購読会員

年間購読1年間 12冊

プレミアム会員

6,600円(税・送料込)

プレミアム会員(シニア) 満65歳以上

5,500円(税・送料込)

◆電子版のみのご購読会員(紙版は送付されません)

地図倶楽部会員	会費(税込)	入会資格
一般会員	5500円	なし
一般会員(シニア)	4400円	満65歳以上
学生会員	2200円	学生または18歳未満の方

地図倶楽部事務局  
map-club@jmc.or.jp 03-3485-5417

《表紙》  
[新潟市全図](国土地理院の地図データを基に作成)  
写真は、本誌3ページと6ページより引用

第55回  
地図展

地図展 2022

入場無料

新潟市へ 新潟市から

新潟県民会館

新潟市中央区一番堀通町3-13

〈展示会場〉ギャラリーB 〈講演会会場〉Cホール

9月27日(火)～10月5日(水) 10:00～18:00(最終日は17:00まで)  
開催時間は変更になる場合があります

〈主な展示物〉 展示内容は予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

【新潟市 Now】

今年7月2日に撮影した空中写真を床に敷きつめました。その上を歩いて、のぞきこんで、ご自分の家を見つけませんか。

【新潟市 Map & Airphoto Archives】

明治から平成までの地形図や空中写真を時代順に並べました。かっつての新潟市の姿を想像してみましょう。

【新潟市 Characteristics】

時代とともに変わる川の流れ、砂丘の形、田畑の広がり、まちなみの様子、港や工業の施設、街道・道路・鉄道のネットワークなどをテーマごとの地図をご覧ください。

【新潟市 Touch】

55インチ大型タッチディスプレイにタッチすると、見たい場所、見たい時代の地図や空中写真がパッと現れます。

〈講演会〉

【開催日】10月2日(日)

■ 信濃川の二大守護神、大河津分水・関屋分水と  
新潟のまち

信濃川河川事務所長 今井 誠 氏  
信濃川下流河川事務所長 小川 純子 氏

■ 地図でたどる新潟の鉄道とその変遷

地図研究者 今尾 恵介 氏

注) 聴講には事前申し込みが必要です

右のQRコードを読み取り、お申し込みください。  
・定員200名  
・先着順(受付期間:9/12 10時～9/29 17時)  
・定員に満たない場合は当日の受付も可能



【ご来館の際のお願い】

マスクの着用、フィジカルディスタンスの確保などのご協力をお願い申し上げます。  
館内では安全・安心の確保を第一に、新型コロナウイルス感染防止策を実施いたしております。

# 日本海縦断国土軸と横断国土軸の 結節都市・新潟市

とどころ たかし  
戸所 隆

## 1. 新潟県の地理的特性と 新潟市の位置

1888(明治21)年の新潟県人口(166万)は全国第1位で、東京135万・大阪124万より多かった。

新潟県は近世から明治中期まで潟や低湿地の新田開発などで、現在まで全国一の米収穫量を誇り、農業生産力が藩政期の国力・人口支持力となっていた。また越後(新潟県)は

五畿七道の北陸道に属し、京都をはじめ関西との交流が中心で、近世に佐渡街道・三国街道を通じて江戸との交流が活発化しても明治初期まで関西・北陸・東北的な社会であった。

明治中期の信越本線、昭和初期の上越線開通は新潟と関東の時間距離を縮め、高速交通化が両者を緊密化し、中部地方に属するものの経済・法務・厚生・環境などで関東甲信越・関東圏に組み込まれることが多い。他方で、新潟地方気象台は豪雪地帯の福井・石川・富山を、北陸地方農政局(本所・金沢市)・北陸信越地方運輸局(本所・新潟市)も北陸4県が管轄区域である。JR東日本・西日本の境は上越市直江津駅で、日本の電力はフォッサマグナ西縁の新潟・富山県境付近で周波数50・60サイクルエリアに分かれ、新潟は東北電力(本社・仙台市)管内となる。この様に新潟県は中部圏、北陸圏、関東甲信越圏、東北圏と多様な県際広域圏・交流圏をもつ。

新潟県は全国シェア約6割の米菓など食品工業に特化する。また、日本最大の石油・天然ガス産出地・石油産業発祥地で、電力供給県、海水浴・スキー・温泉など首都圏のリゾート地である。県内は上越・中越・下越・佐渡に地域区分され、上越・中越の中心都市は上越市・長岡市である。他方で、新潟市は下越の中心で



写真1 朱鷺メッセ(万代島)と新潟西港周辺



図1 明治中期の新潟中心部掘割・水環境  
 「にいがた掘割物語絵図 ver.2」2006. 堀割まちづくり新潟。「新潟の町小路めぐり」2009. 新潟市。「新潟下町あるき」2010. 新潟市を参考に戸所隆作成(地理院地図2022年7月取得)



写真2 万代橋と古町・日本海方面

あり、県庁所在かつ人口約80万・本州日本海側唯一の政令指定都市で、首都東京からの横断国土軸と日本海国土軸の結節地に位置する。

## 2. 港町から発達した政令指定都市

阿賀野川は1730年まで現・信濃川の河口で合流し、日本最大の米産地・越後平野を後背地に河口左岸の新潟町は長岡藩、右岸の沼垂町は新発田藩の外港・北前船港町として発達した。城下町起源都市の多い日本で新潟市の歴史核は港町・幕末開港5港の一つで、旧新潟税関建物などの遺構・遺跡が残る。

新潟町は17世紀半ばから砂丘側に寺町、上流側に白山神社を置き、それらと川岸間に縦横の堀と通りの町割りを行った(図1)。東堀通・西堀通はその名残で、明治以降の県庁・議事堂・市役所、学校、白山公園などの新設行政・都市施設は寺町や白山神社の外側や砂丘側に立地、商店街や花街は古町通や東堀通など歴史核内に発達した。明治初年にイザベラ・バードは『日本奥地紀行』で新潟の堀・舟運景観を愛でている。堀割は1964年の西堀を最後にすべて埋立道路化したが、現在、堀割景観再生活動が数か所で見られる。

新潟町が県庁所在地として発展するのに比べ沼垂町は遅れた。しかし、両町は1886(明治19)年に万代橋で結ばれ、北越鉄道(後の信越本線)沼垂駅開設(1897年)で東京とも結ばれた。新潟駅は1904年に沼垂駅からの延伸で現駅より万代橋寄りに開設、1958年に現位置に移った。沼垂駅は貨物駅化し、石油化学・製紙・機械工場の集積する工業地帯形成に貢献している。

## 3. 土地基盤改良による市街地拡大

新潟町は1889(明治22)年に人口4.4万で市制施行、1914(大正3)年沼垂町を合併(人口9.2万)、1943(昭和18)年に大形村・石山村・鳥屋野村合併で19.2万人となる。内野町などとの昭和の大合併(1954~61年)で205.9km<sup>2</sup>・人口32.7万に拡大、その後の経済成長で2000(平成12)年には50.1万人となった。黒埼町に始まる2001~05年の白根市、豊栄市、亀田町、横越町、西川町、味方村、潟東村、月潟村、中之口村、新津市、小須戸町、岩室村、巻町との平成の大合併で726.1km<sup>2</sup>・81.4万人となり、2007年に政令指定都市となる。この間の市街地拡大・都市発展(本誌

24~49頁の中心部・全域図)は歴代の土地基盤改良の貢献が大きい。

海岸砂丘による排水不良で新潟市域には潟が多く形成され、水害に悩まされたが、大河津分水開削(1922年)で激減した。信濃川流量減による第二次世界大戦前後の埋立てで万代地区や川岸町ができ、県庁から万代島までの信濃川幅は約半分となる(図1)。その後の信濃川水系河川整備による新潟市内信濃川への流

入量増で新潟市中心部の水害危険度が再び高まるが、関屋分水路(1972年通水・約1.7km)が水害防止と低地の市街化に貢献している。

江南区はかつて亀田郷といわれ、日本海平均潮位以下が約2/3を占め、腰までつかぬ泥田地域であった。泥田は戦後の政府食糧増産政策による排水機場稼働で1958年までに乾田化した。降雨は農業用水路等から新潟市で最も低い海拔マイナス2.5m水面の鳥屋野潟へ流入し、排水機で信濃川に出される。砂丘と信濃川間の都心や信濃川の南部一帯は標高0m前後の低地で(図2)、新潟地震(1964年)の際、排水機能低下で亀田郷は水浸しになった。現在の新潟市は鳥屋野潟と排水機に支えられ、潟周辺にはスタジアム(4.2万人収容)・野球場(約3万人収容)と広大な緑地公園が整備されている。

## 4. 新潟市の都市構造

土地利用図(図3)は高度経済成長を経て、現在の都市構造骨格が構築された1976年の新潟市中心部を示す。白山公園から北へ寺町(緑色)に沿って延びる商業地区(赤)が中心商店街古町を挟む東堀通・西堀通間の南北都心軸となる。他方、戦後新都心化した新潟駅周辺から万代橋を経て旧都心の古町界隈を結ぶ国道7・116号が東西都心軸で、両都心軸が交差する「市民プラザ(旧市役所)」周辺が伝統的繁華街・花街である。

万代地区は1973年よりバスターミナル・百貨店・娯楽施設などからなる万代シティや新潟日報本社ビルなど今日までの再開発で第3の都心となる。川沿いの運輸流通施設(水色)は現在までに業務・商業ビルや高層マンション集積地に転換している。その結果、新潟県の2020年最高地価は新潟駅前、2位万代地区、3位古町となる。なお、上越新

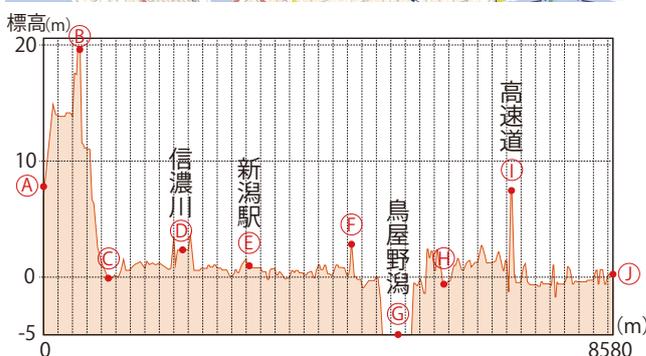


図2 新潟市中心部の地形断面図  
地理院地図にて戸所隆作成

## 地図書窓

### 地図でみる新潟県一市街地に刻まれた歴史と地理

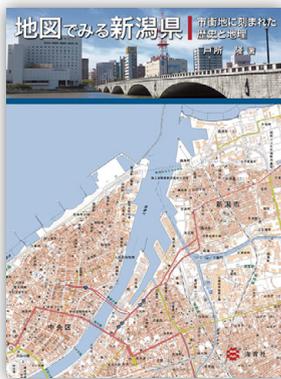
戸所 隆 著

海青社の「地図でみる…」「読みたくなる地図…」シリーズに、新潟県版が刊行された。著者は日本地理学会の元会長で高崎経済大学名誉教授の戸所隆先生。上越市創造行政研究所の所長(非常勤)を10年以上務めた経験等を活かし、新潟県の37地域の地誌を描いている。本書は、各地域見開き2ページで構成され、右ページは地理院地図が、2万5千分の1のスケールで掲載されている。左ページは当該地域の自然、歴史、産業、都市構造などを右ページの地形図と関連して描いている。また、旧版地形図や著者撮影の地理写真も多数掲載されており、「地図でみる」の書名のとおり、地形図の様々な情報を解き明かしていく地誌となっている。

地域を空間的、科学的に描く地誌は、地理学者の真価が問われる業績である。しかし、近年は地理学も専門分化が進展し、地誌は分担執筆がほとんどである。一人の地理学者が新潟県全域をほぼ網羅的に描いた本書は、まさに驚きである。その結果、新潟県の地域区分と県土構造、日本の国土構造、さらには環日本海経済圏など、空間的なスケールを自在に変化させるなかで、各地域の位置

づけや特性を浮き彫りにすることに成功している。地形図の図幅取りなど、日本を代表する地理学者のノウハウに感心しながら、そのストーリー性と地誌学の醍醐味を感じることができる。本書の地形図と地誌の整理方法は、地域学習や地図学習の教科書としても優れており、新潟県以外の小中高校の先生方にも、一読をお勧めしたい。

本書は、巻頭に多数のカラー写真が掲載されているが、一般書として価格を抑えるために、地理院地図が白黒印刷になっている。そのため、建物(オレンジ色)や水系(青色)等の判読が難しい面は致し方ないが、本特集号「新潟市」を含む新潟県をより深く知るために、地形図の読図に挑戦しながら、地域を読み解く楽しさを是非とも感じて欲しい。



(文部科学省・教科書調査官・三橋 浩志)

海青社 2022/04/15 発行  
B5変形 96頁  
2,090円(税込)

次号予告 2022年10月 通巻601号

毎月10日発行

地図と学ぶ月刊

## 地図中心 特集 鉄道の輪、環状運転鉄道

1872(明治5)年10月14日に日本初の鉄道が新橋-横浜間に開業してから、今年・2022年で150年を迎えます。その新橋-横浜間の一部とも重なる山手線が、現在のような環状になるまでには半世紀以上の時間がかかっています。国内には、山手線をはじめいくつもの環状運転をしている鉄道があります。地図で鉄道の輪を周回しましょう!



バックナンバーのご案内

地図中心

検索

「地図倶楽部」へのご入会をお待ちしています! 03-3485-5417(事務局)

地図中心  
2022-9 通巻600号

発行 2022年9月10日  
発行所 一般財団法人日本地図センター  
〒153-8522  
東京都目黒区青葉台4-9-6  
電話 03-3485-8125  
FAX 03-3485-5593  
(「地図中心」編集室)  
メール chushin@jmc.or.jp  
URL https://www.jmc.or.jp  
©一般財団法人日本地図センター  
定価 880円(税込)  
印刷所 昭栄印刷株式会社

地図と学ぶ月刊誌



本誌の一部あるいは全部を無断で複写・複製・転載することは、法律で認められた場合を除き、禁じられています。

2022年8月号(通巻599)で、一部文字が欠けておりました。訂正して、お詫び申し上げます。  
P.38・上部:(正) 明け方緒川を出て村木城を攻撃。北は攻撃せず東の正門水野/西の裏門信光/南の大堀信長で城攻め

雑誌86689-09



4910866890928  
00800